

東大阪市
新型コロナウイルスワクチン接種実施計画
【東大阪方式】（初版）

※今後変更されることがあります。

令和3年3月11日

東大阪市健康部保健所新型コロナウイルスワクチン接種事業課

東大阪市の目標は、

円滑、迅速、何よりも安全に接種すること



【東大阪市総人口】 約50万人

(高齢者14万人、その他一般36万人、うち16歳未満5.8万人)

【接種率の想定】 約62%

(高齢者インフルエンザワクチンの接種率8万6千人/14万人)

【接種計画】 高齢者のうち8万6千人に対し、11週間以内に2回接種を完了する。

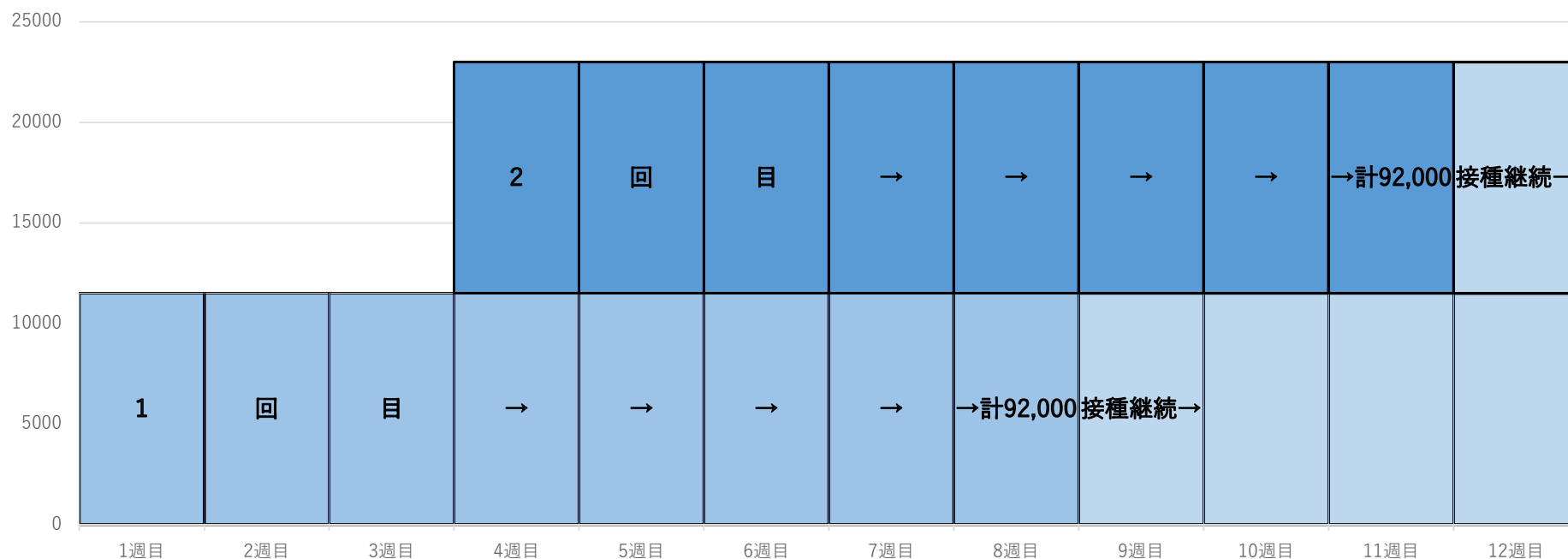
一週間に最大23,000回の接種を実施する。

※ワクチンの供給量が十分な場合の想定。

高齢者へ2回接種するイメージ

週に23,000回の接種が可能であれば、高齢者8万6千人（高齢者インフルエンザワクチンの接種者数を想定）に対し、11週間で2回の接種が完了する。その後は次順位の対象者へ接種を継続する。

最初の3週間は週当たり11,500回。4週目より2回目が加わり倍の週23,000回。



東大阪市の接種体制

- ・個別接種と集団接種を組み合わせた接種体制
- ・診療所における個別接種を中心に実施し、集団接種会場が補完する
- ・個別接種会場は、平時において高齢者向けインフルエンザワクチン接種事業を実施している医療機関のうち約200か所を想定
- ・集団接種会場は、
 - 四条図書館 2階（旧東保健センター）
 - 花園ラグビー場
 - ヴェル・ノール布施
 - 市役所本庁舎1階
- ・予約は、個別接種は直接医療機関へ申し込み
（高齢者向けインフルエンザワクチン接種と同様）
集団接種及び大規模な医療機関等は市が受付
（LINE、インターネット、コールセンター）

東大阪市の接種計画

- 個別接種については、平時において高齢者向けインフルエンザワクチン接種事業を実施している医療機関において実施する。（かかりつけ医が接種するほうが安心） 2月に実施したアンケートの結果、ファイザー社ワクチンに対応可能と回答いただいた医療機関は約200か所で週に約18,000回の接種が可能。

- 集団接種会場（常設）における接種は、

四条図書館2階（旧東保健センター） 花園ラグビー場 ヴェル・ノール布施 市役所本庁舎1階

の4か所において実施。接種については三医師会、市立東大阪医療センター及び恵生会病院に依頼。

集団接種は4か所合計で週に5,000回と想定する。

個別接種と集団接種をあわせて 週に23,000回と想定。

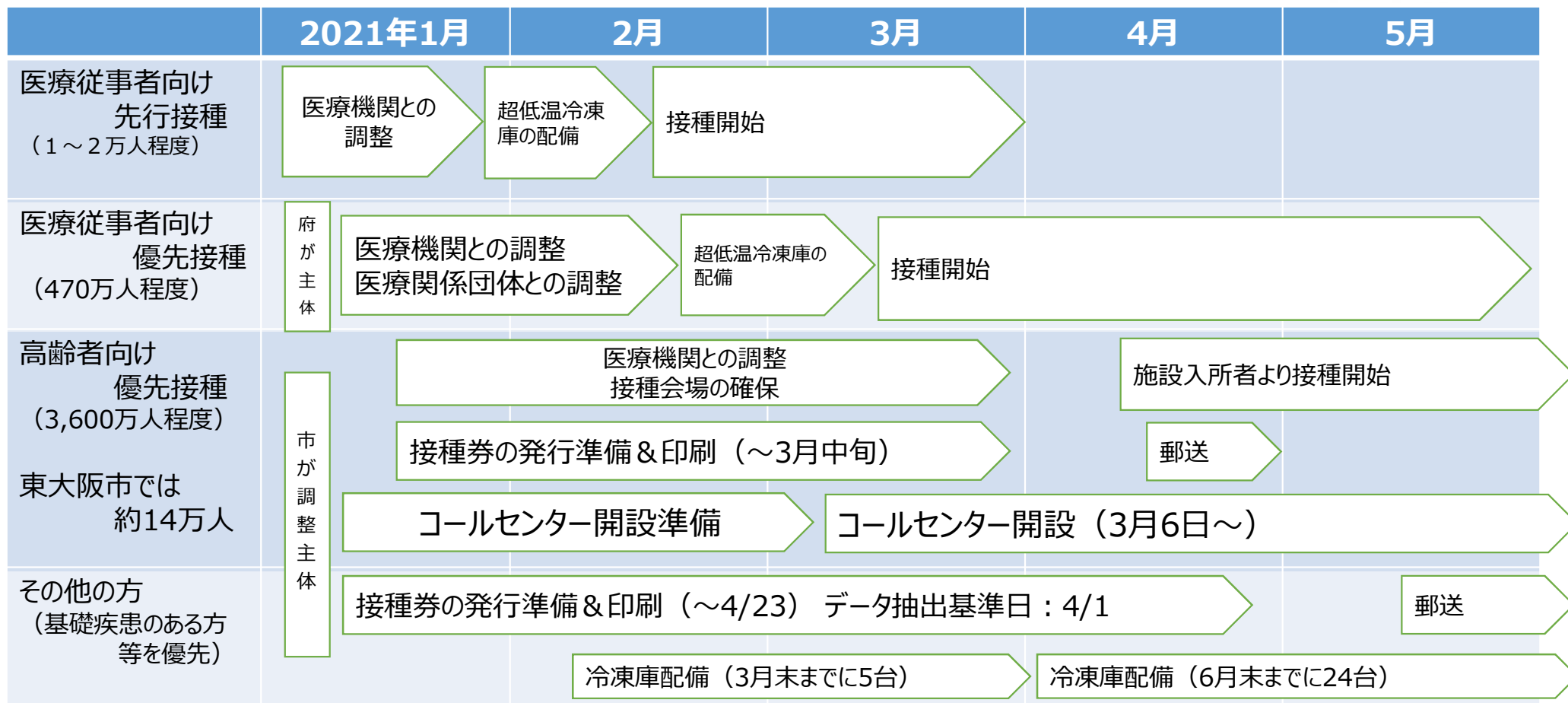
全市民約50万人に2回接種するには、44週間必要。（50万人×2回÷23,000回）

※ワクチンの供給量が十分な場合の想定。供給量にあわせた柔軟な対応が必要。

ワクチン接種スケジュールのイメージ



※ワクチンの供給量により変更されることがあります。



診療所等サテライト型接種施設における接種の流れ (ファイザー社ワクチン)

- ① 診療所より東大阪市へ見込み数を報告（メール等を想定）
- ② 東大阪市はV-SYSで発注し、ワクチン到着後はディープフリーザーで保管
- ③ 東大阪市より診療所へワクチン確保数を報告（メール等を想定）
- ④ 診療所においてワクチン確保数を確認し、接種予約を受付
（1バイアル5回分なので5の倍数で受付）
- ⑤ 診療所より東大阪市へ予約数を報告（メール等を想定）
- ⑥ 東大阪市において小分け（1バイアル(5回分)単位）
- ⑦ 東大阪市より診療所へワクチンを移送（クーラーボックス等で冷蔵輸送）（運送会社に委託）
- ⑧ 診療所においてワクチンを受け取り冷蔵にて保管
- ⑨ 診療所において5日以内に接種（冷凍庫からクーラーボックスへ移した時点から5日）
- ⑩ 診療所において接種実績を報告（V-SYSに接種実績数を入力、予診票を東大阪市へ送付）
- ⑪ 東大阪市において接種履歴の入力（診療所から届いた予診票をもとに入力）

東大阪市保健所でのワクチンの小分け (ファイザー社ワクチン)



- ①メーカーより保健所に届いたワクチンをディープフリーザーで保管
- ②市職員により保冷ボックスへ小分け
 - ・ワクチンをディープフリーザーより取り出し、バイアルホルダーへワクチンを入れる。
 - ・ワクチン（バイアルホルダー）と保冷剤を保冷ボックスにセットで詰める。
 - ・ワクチンとあわせて、関係書類（接種シール等）、生理食塩液、接種用針・シリンジをセット。
- ③運送業者へ保冷ボックスセットを手渡し。
- ④運送業者により市内診療所（サテライト医療機関）へ配送（3時間以内）
- ⑤診療所において保冷ボックスを受け取り、**ワクチン（バイアル）を冷蔵庫（2℃～8℃）へ移しかえる。**

集団接種会場のイメージ

市町村が特設会場を設けた場合における接種の具体的なイメージ

必要な準備

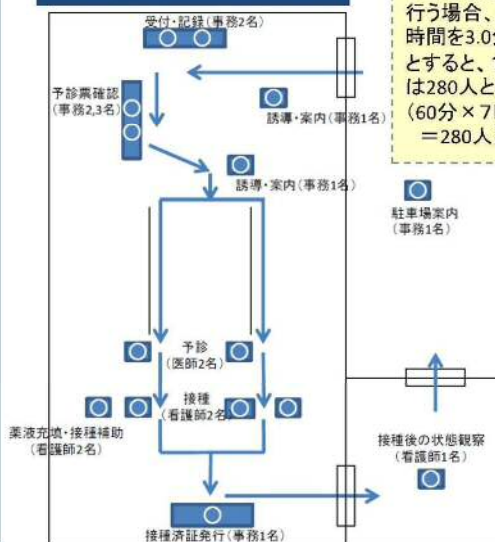
- 会場の確保 ※医療機関でない場所を接種会場として用いる場合は、診療所開設の届出等が必要
- 運営方法の検討：直営／委託、運営管理責任者の明確化、予約受付方法、応急対応の方法 等
- 従事者の確保
- ワクチン等の配送先の登録：V-SYSに配送場所、担当者名、担当者連絡先等の情報を登録
- 必要物品の確保・保管

リハーサル動画を
提供予定！

当日の流れ

- ① 受付**
検温、身分証明書の確認、予診票記載の案内
- ② 予診票確認**
記載項目の抜け漏れ・不備のチェック、(2回目接種の場合)接種間隔や1回目接種ワクチン種別の確認
- ③ 予診 (医師)**
体調や持病を確認する等必要な診察を接種前に行い、予防接種を受けることが適当でない者または予防接種の判断を行うに際して注意を要する者に該当するか否かの確認
- ④ 接種 (医師または看護師)**
薬液を充填する者(薬剤師等)も別に配置が必要
- ⑤ 接種済証の交付**
接種したワクチンのワクチンシールを接種済証に貼用し、接種日・接種場所を記載する
- ⑥ 接種後の状態観察**
アナフィラキシーや血管迷走神経反射等の症状が生じることがあるため、一定期間観察を行う

会場設営のイメージ



1会場あたり2列体制で接種を行う場合、予診から接種までの時間を3.0分、実施時間を7時間とすると、1日あたりの接種人数は280人となる
(60分×7時間÷3.0分×2列=280人)

1チーム1時間あたりの接種人数の想定は、20人～30人(国の自治体向け説明会(1月25日)資料では20人。新型インフルエンザ集団接種の手引きでは30人。)

基本型接種施設における接種の流れ（ファイザー社ワクチン）

（1日に概ね100回以上接種が可能な施設を想定。ディープフリーザーを順次配備予定。）

- ① 医療機関においてV-SYSに見込み数を入力。箱単位（975回分）
- ② 国→大阪府→東大阪市→基本型接種施設の順に分配量が確定。
- ③ 医療機関においてV-SYS上で納入予定日及び納入数を確認。
- ④ 医療機関において接種予約を受付。（医療機関が希望される場合は東大阪市が設置する集団接種会場と同様に予約を受け付けることを検討中）
- ⑤ 医療機関において納入予定日に卸業者よりワクチンを受け取り保管。（ドライアイス入り保管箱のまま、あるいはディープフリーザーで保管）
- ⑥ 医療機関において保管期限以内に接種。
- ⑦ 医療機関において接種実績を報告。（V-SYSに接種実績数を入力、予診票を東大阪市へ送付）

高齢者施設入所者への接種

市内高齢者施設等の入所者は約10,000人（定員ベース）

高齢者施設の平時における季節性インフルエンザワクチンの接種方法と同様の対応を基本とする。

①当該施設接種医による施設内における接種

当該施設又は嘱託医がサテライト型接種施設となり施設内で接種

②外部接種医による、当該施設内における接種

基本型又はサテライト型接種施設からの巡回接種

③施設外での受診が可能な方は、個別または集団接種会場で接種

※当該施設において接種医が確保できない場合は、東大阪市と調整の上、**医師会に対し巡回接種の斡旋を依頼する。**

4月からのワクチン接種について

4月分のワクチン配分量が示されたが、極めて少量であるため、個別接種及び集団接種の実施は見送り、高齢者施設入所者への接種から開始する。

東大阪市への配分（ファイザー社ワクチン）

第一便 225回分 4月 5日の週に大阪府へ到着

第二便 1,015回分 4月12日の週に大阪府へ到着

第三便 1,240回分 4月19日の週に大阪府へ到着

合計 2,480回分 （1,240人分）

施設において接種医が確保できる高齢者施設より段階的に接種を開始する。

令和3年3月6日（土）開設

東大阪市新型コロナワクチンコールセンター

▽電話番号 **06-7668-0485**

FAX番号 072-929-8239

▽開設時間 月曜日～金曜日 9:00～20:00
土・日曜日、祝休日 9:00～17:30

▽受付内容 ワクチン接種に関するお問い合わせ
集団接種の予約受付（予定）